

箕面・世界子どもの本アカデミー賞

施策のポイント

現在、日本国内において、子どもの視点で選考された文学賞はないといつてよい。選考方法が困難なことが挙げられるが、学校図書館司書を通して子どもたちの意向を汲み、子どもたち自身が選ぶ文学賞である。

自治体情報

大阪府箕面市

人口 / 126,715人

標準財政規模 / 24,122,289千円

担当課 教育推進部学校教育課

電話番号 直通 072-724-6761 代表 072-723-2121 内線 3469

実施主体 箕面市

関連ホームページ

事業期間 平成 22 年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

市内のある学校で行った「アカデミー賞」の取組が子どもたちの読書活動への意欲へつながったため、全市的に展開することになった。

よく読まれた本をアカデミー賞として表彰することを通して子どもたちの読書への意欲を高めるものであり、受賞作品の作家と子どもたちの出会いが実現したことにより、子どもが作家に直接インタビューするなどの交流が行われ、子どもたちの読書への意欲や関心が高まった。

2 取り組みの具体的内容

- (1) 学校関係者、公立図書館の関係者、読書活動に関わる市民団体と行政からなる「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」選定プロジェクト実行委員会を立ち上げ、実行委員会として、この事業を進める。
- (2) 学年に応じて絵本賞、作品賞、主演男優賞、主演女優賞、ヤングアダルト賞などの部門を設け、部門ごとに各学校でよく読まれている本、人気の本、子どもたちに是非読ませたい本を学校図書館司書等の関係者が「ノミネート会議」で作品を選定する。
- (3) ポスターやノミネート作品のブックリストを作成し、事業の周知を図るとともに、ノミネート本を購入し、各校に配付し子どもたちの読書環境を整える。また、公立図書館においても、「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」のコーナーを設けるなどして、学校と公立図書館が連携して取組を進める。
- (4) ノミネート作品を読んだ子どもたちにより部門ごとに投票を行い、投票の結果各部門の受賞作品が決定する。
- (5) 受賞作品の作家をできるだけ多く招き、授賞式を行う。授賞式は、子どもたちの手作りで実施できるよう工夫する。
- (6) 招いた作家については、可能なかぎり市内の小中学校の訪問を依頼し、直接、子どもたちと触れ合い、交流する機会を作り、読書への意欲付けとする。

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

- (1) 子どもたちの読書への関心や意欲が高まる。
- (2) 読書活動が盛んになり、学校図書館の予約冊数や貸し出し冊数が増加する。

4 現在までの実績・成果

市内のある小学校で過去2年間取り組んだ結果、子どもが実際に作家と出会い、直接インタビューすることを通して、本や読書への関心が高まった。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

- (1) 各校での貸し出し状況を学校図書館司書が把握し、そのデータを参考にノミネート作品を選定する。
- (2) ノミネート作品はもとより、関連する本の整備など、子どもたちの読書環境を整えるために予算を確保することが課題である。今年度は、「地域ぐるみの子ども読書活動推進事業」（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の委託事業を受けることができ、予算確保のめどがたった。
- (3) 「アカデミー賞」の周知や読書活動の推進のための各学校の取組や授賞式の運営など、子ども主体となって、事業を進めるための仕組みをどう作るかが課題である。

6 今後の展開と課題

子どもたちの読書意欲を高め、単年度の事業ではなく、複数年継続的に取り組む事業としたい。そのために、できるだけ多くの子どもたちがノミネート作品の本を気軽に読めるように、本を確保するための工夫や、授賞式や作家を招くための準備など、予算の確保や体制を構築することが求められる。



予算関連データ

総額 ①～⑤の計		財源内訳（財源区分：①～⑤）				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
64千円		0千円	0千円	0千円	0千円	64千円
①～④の名称、 所管など	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					